

学校法人帝京大学
帝京大学短期大学
機関別評価結果

平成 21 年 3 月 24 日
財団法人短期大学基準協会

帝京大学短期大学の概要

設置者	学校法人 帝京大学
理事長名	冲永 佳史
学長名	—
A L O	今関 雅夫
開設年月日	昭和40年4月1日
所在地	東京都八王子市大塚359番地

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
人間文化学科		50
現代ビジネス学科		150
	合計	200

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

帝京大学短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成21年3月24日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成19年7月9日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

建学の精神は「実学」、「国際性」、「開放性」という三つの教育指針において具体的に明示され、教育の基本理念である「自分流」の支柱となっており、教職員・学生への共有・定着にも取り組み、教育研究活動に確かに反映されるよう努めている。

教育課程は、基礎教養必修科目として「ライフデザイン演習Ⅰ～Ⅳ」を基礎に据え、更に人間文化学科は9分野・系統、現代ビジネス学科は10分野・系統に整理された専門科目に併設四年制大学とのオープンカリキュラムを加え、教育目的達成に十分なものとなっている。また、FDT (Faculty Development Taskforce) や授業における学生の最低到達ライン (Minimum Requirement) の設定などを行い教育力向上に努めている。

教員組織は短期大学教育にふさわしい資質を有し、施設設備などは併設四年制大学との共用が基本であり十分な教育環境が整えられている。校舎の安全対策に積極的に取り組み、耐震補強工事、アスベスト対策がほぼ完了している。

基礎教養必修科目「ライフデザイン演習Ⅰ～Ⅳ」を通して就職、進学への目的意識を持たせるキャリア教育を行い、資格取得への取り組みも教育課程全体の中で支援体制が整っている。

入学前教育や能力別クラス編成、英語学習ラウンジ、「何でも相談コーナー」、専門医・専門家常駐の学内診療所、カウンセリングルーム、就職対策活動情報に常時アクセス可能なキャリアサポートセンターなど学生支援体制も充実している。

教員の研究にかかわる環境は整えられている。研究に関する規程は整備され、研究費、研究旅費は適切に支給されている。

社会的活動が重要であるとの認識に立ち、併設四年制大学と連携して各種公開講座を実施するなど学園全体で社会的活動に取り組んでいる。多摩地区での産学官連携による地域活性化、生涯学習、スポーツ文化の向上に積極的な役割を果たしている。

理事会・評議員会・監事監査は、私立学校法及び寄附行為に従って適切に運営されている。理事長と学長が緊密に連携しながら適切にリーダーシップを発揮し学園運営が行われている。また、1泊2日の職員研修などスタッフ・ディベロップメント (SD) 活動にも積

極的に取り組んでいる。

当該短期大学及び法人全体の財務状態は極めて健全であり、学園の発展的継続を支える強く健全な財政基盤を有している。

自己点検・評価活動を非常に重要なものと認識し、評価結果を改革・改善につなげようとする強い意欲を持っており、確かな短期大学改革向上に大いに評価できる。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 基礎教養必修科目「ライフデザイン演習Ⅰ」の中で、建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標などを具体的に引きあげ詳説し、学生の意欲向上につなげるよう努めている。
- 新任教員ガイダンスは、新任非常勤教員も加えて開催し、当該短期大学の基本理念の浸透に努め、建学の精神・教育理念が実際の教育に反映されるように取り組んでいる。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 個々の授業において最低到達ライン（Minimum Requirement）を設定し、その効果測定とフォローを行い学生の習得度向上に取り組んでいる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 校舎の安全対策に積極的に取り組んでおり、耐震補強工事、アスベスト対策がほぼ完了している。防火、防災対策についても積極的に取り組んでいる。また、職員による週1回の見回りの実施など、点検、整備などのメンテナンスも計画的に行われている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 入学前教育指導が充実している。e-learningを活用した事前学習指導を行うとともに、3月には、学生と保護者に対してプレオリエンテーションを実施し、大学生活に対する

不安の解消や学習への準備を整えさせている。

- 学内に専門の精神科医師、カウンセラーを常駐させるなど、心の問題を抱える学生に対応できる体制が整っている。
- 学生は、教員の出勤状況をテレビモニターで容易に知ることができる。オフィスアワーの利用などに有効に活用されている。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 「何でも相談コーナー」や「キャリアサポートセンター」での教職員の協力体制、「グリーティングキャンペーン」での事務職員の積極的な活動など、教員と事務職員が連携して積極的に学生の指導にあたっている。
- オン・ザ・ジョブ・トレーニング (OJT)、業務に必要な外部研修への参加はもちろん、1泊2日の新人研修・管理職研修や評価者研修などSD活動にも意欲的に取り組んでいる。

評価領域Ⅸ 財務

- 財務状況は良好であり、当該短期大学の改革・改善、発展的継続に十分にこたえる強く健全な財政基盤を有している。マルチメディア教室、キャリアサポートセンター、メディアライブラリーセンター（図書館）、T・SAC（帝京 Study Abroad Center）、体育館等の教育環境の充実が積極的に図られている。
- 地球温暖化対策計画書（5ヶ年計画で1パーセント以上エネルギー消費を低減するため燃焼機器の空気比調整など9項目の実施、教職員のクールビズ、エアコン温度基準値設定の徹底などの実施）を東京都に提出するなど、省エネルギー、省資源などに積極的に取り組んでいる。

（2）向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 非常勤教員との意思疎通・意見交換などの機会を組織的・定期的に設けることは、教育力向上に資するものであり検討されたい。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 学生の喫煙について、一層の分煙マナー向上に努められたい。

評価領域Ⅸ 財務

- 短期大学の教育研究経費の比率がやや低いので、改善が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学の精神・教育理念（教育の基本理念「自分流」及び「実学」、「国際性」、「開放性」の三つの教育指針）、教育目的・教育目標などの当該短期大学教育の基盤となる理念が明確かつ具体的に示され、さらに解釈文も分かりやすく記載されている。教員便覧・学生便覧・学生証・身分証明書・事務室内掲示・学生手帳・ウェブサイトなどにより広く明示されるだけでなく、非常勤教員も加えての新任教員ガイダンスの開催、学年始めの学生ガイダンスや、基礎教養必修科目「ライフデザイン演習Ⅰ」の中での詳説など、教職員・学生への周知・浸透・定着に取り組み、すべての教育研究活動に反映されるよう努めている。また建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標の確認点検に、教務委員会・教員会議などでの作業、教授会・理事会などの協議・審議で継続的に取り組み、社会情勢や時代のニーズに的確に対応するよう努めている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

主要科目には専任教員を配置し、基礎教養必修科目として「ライフデザイン演習Ⅰ～Ⅳ」を基盤に据え、現代社会に不可欠な資質・能力である英語及び情報関連の知識・技能の習得を目指す科目を配置している。また、人間文化学科は9分野・系統に、現代ビジネス学科は10分野・系統に専門科目を整理しているほか、両学科共通の総合基礎科目及び自己啓発支援科目を設置し、学生に多様な選択肢を提供している。それぞれの科目の中の科目構成は建学の精神を受けた教育方針である「実学」、「国際性」、「開放性」を裏付けるカリキュラム構成となっている。さらに、当該短期大学は四年制大学と併設されている利点を生かして、オープンカリキュラムを通じ、文系各学部の基礎的専門科目を学ぶことができ

るシステムを取り、選択の幅はさらに拡大している。

講義概要の構成は学生が授業内容を理解する上で適切・的確であり、その周知手段についても冊子ばかりでなく、CD-ROMを作成して学生の利用の便に供するほか、ウェブサイトで一般公開している。また、ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動が活発に行われており、その活動の牽引的な役割を果たす FDT（Faculty Development Taskforce）を設置し、併設の四年制大学教員との強力な FD 活動を展開し教育力向上に努めている。その活動内容については、『FDT 活動報告』や年報に掲載している。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員組織は両学科とも短期大学設置基準で規定する専任教員数を充足しており、教員の採用・昇任は当該短期大学の人事委員会規程に基づき適切に実施されている。教員の年齢構成も平均年齢 53.5 歳、短期大学教育にふさわしい資質を有し教員構成のバランスは良好である。校地・校舎面積は併設の四年制大学との共用部分が多く、短期大学設置基準の充足はもちろん、恵まれた教育環境といえる。教育機器・備品などの整備、校舎の安全性、障がい者への対応など、快適な教育環境の維持に努めている。図書館の面積・蔵書数、予算など、適切な水準に達しており、学生の自己学習環境の改善や地域社会人の利用促進を目標に開館時間を延長するなど利用の便に供している。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

成績評価は期末試験や期末レポートだけではなく、小テストやレポート及び発表などの課題や出席、授業に取り組む姿勢などを考慮している。定期的に授業アンケートを実施し、教室運営や授業内容の改善に努めている。また、「ライフデザイン演習Ⅰ～Ⅳ」を通して就職、進学への目的意識を持たせるキャリア教育を行い、きめの細かい指導を心掛けている。

資格取得への取り組みも、教育課程全体の中で支援体制が整っており、取得を目指した学生の資格取得率は良好な成果をあげている。5 割を超える編入学希望者に対しては併設四年制大学とのオープンカリキュラムの実施や基礎学力向上科目の新設により充実を図っている。また、就職の状況はそれぞれの学科で専門就職の割合が高く、おおむね希望どおりの就職を果たしている。

卒業後評価は行っていないが、卒業アンケートの実施や就職者に対してはキャリアサポートセンターで適宜 OB、OG 会を開催し卒業生の声を聴取している。併設四年制大学への編入者については必要に応じて直接窓口で話を聞くなどして情報の収集に努めている。今後、進学先・就職先などへの組織的、継続的な調査や卒業生からの卒業後評価の実施を期待している。全体として教育目標の達成度と教育効果の領域における当該短期大学の取り組みは的確であり良好である。

評価領域Ⅴ 学生支援

入試広報業務については、法人本部統括のもとに行われ、短期大学案内、ウェブサイト

に教育理念、教育目的が明示され、選抜方法についても分かりやすく記載されるなど、適切に行われている。また、入学前教育や入学式後のオリエンテーションを通して、学生が何をどのように学ぶかが学生便覧、「ライフデザイン演習Ⅰ～Ⅳ」用教材で明確にされている。学習面では、情報関連科目、英語など個々の学生の進度に違いが出てくる科目については、能力別クラス編成や課外での自習を補助するための英語学習ラウンジ、数理自習室を設けるとともに、全教員がオフィスアワーを設け、適切な個別指導ができる体制を整えている。

学生生活面では、入学前のプレオリエンテーションなどを通して学内環境、科目履修方法、クラブ活動、住居など詳細な情報を提供し、安心して学園に溶け込めるような配慮がされている。また、学生の健康管理面の関連施設が充実し、専門医・専門家が常駐した学内診療所、カウンセリングルームも完備している。

また、学生の喫煙については、一層の分煙マナー向上に努められたい。

就職支援については、学園全体の就職対策活動で提供される情報に常時アクセスできる体制が整っている。進学については、併設四年制大学との教育課程上の連携が進み、学生が編入後もスムーズに学習を継続できる体制となっている。

評価領域Ⅵ 研究

教員の研究にかかわる環境は整えられている。研究に関する規程は整備され、研究費、研究旅費は適切に支給されている。研究時間については、原則的には講義日数が教授週 3 日、その他の教員が週 4 日とされ、残りが研究日となり教育活動と研究活動のバランスは取れているといえる。研究費は旅費を含め十分な支給額である。また年 1 回紀要が発行され、教員は研究成果を掲載する機会が与えられている。各教員の研究の内容はウェブサイト上で公開されている。研究論文数は、教員によってかなりの個人差が見受けられる。また、科学研究費補助金の申請件数は少ないが、教員の意欲は十分であり、今後一層の教員の研究活動の活発化が期待される。

評価領域Ⅶ 社会的活動

社会的活動が重要であるとの認識に立ち、併設四年制大学と連携して各種公開講座を実施するなど学園全体で社会的活動に取り組んでいる。多摩地区での産学官連携による地域活性化、生涯学習、スポーツ文化の向上に積極的な役割を果たしている。しかしながら、短期大学の特性を生かした社会的活動への取り組みについては十分ではなく、特に学生が社会とのかかわりを通して実践力を身に付けてゆくという観点から、今後この分野での一層の努力に期待したい。また国際交流、協力の取り組みは併設四年制大学と一体となって行われている。

評価領域Ⅷ 管理運営

学園運営は、私立学校法及び当該学校法人の寄附行為により適切に行われている。理事

長と学長が緊密に連携しながらリーダーシップを発揮し、当該短期大学を取り巻く環境の変化に的確に対応している。これまで男女共学化、学科名称・教育課程の変更、併設四年制大学への編入の促進を行ってきた。

短期大学の教育目標に対する教職員の意識の共有や教員と事務職員の連携に力が注がれており、学校法人と教職員、教員と事務職員の協力体制が整っている。

事務諸規程は整備され、事務設備などは良く整えられている。職員の任用は、学校法人が設置する人事委員会の規定に基づき適切に行われている。また、職員の研修にも力が注がれている。就業に関する規程は整備され人事管理は適切に行われている。

評価領域Ⅸ 財務

学校法人の財務運営は長期計画に基づき計画的に行われている。当該短期大学の帰属収支は継続して収入超過となっており財務状態は極めて健全である。ただし、短期大学の教育研究経費比率がやや低い。当該短期大学の予算規模が学校法人全体に占めるウェイトは非常に小さいが、学校法人全体の財務状態も極めて健全であり、学園の発展的継続を支える強く健全な財政基盤を有している。また、豊富な資産は安全を基本としながら積極的な資産運用が図られている。教育施設・設備への投資が積極的に行える財務環境にあり良く整備されている。また、危機対応や環境対策にも力が注がれている。財務状況の監査及び情報公開も適切に行われている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

当該短期大学では自己点検・評価は、教育的観点からも、研究上の観点からも非常に重要なものであると認識している。自己点検・評価のためのシステムとしては、教務委員会に加え自己点検・自己評価委員会を設置しており組織的・定期的に活動している。評価結果については、直ちに実施できるものは早急に、時間を要するものについては計画を立てて行っており、改革・改善につなげようとする強い意欲を持っている。自己点検・評価報告書は2年に1回発行され、近傍の短期大学にも配布されている。相互評価はまだ実施していないが、実施して行く方向で考えており今後に期待する。